

検査のパレット

検査項目によって採血を行うスピッツが異なるのですが、血液検査を行うときに適した採血順番があるのをご存知でしょうか。また、せっかく採血をしても血液が溶血をしてしまうと血液検査の結果に様々な影響が出てしまいます。

2 回目の検査のパレットでは、**検査に適した採血順番と溶血による検査値への影響**についてお話させていただきたいと思います。

● 検査に適した採血順番があります。

採血のとき、最初の血液は刺入時の組織液が混入するため、採血管内で凝固の原因となる可能性があります。1 本目は凝固しても問題がない採血管、つまり**生化学などの血清項目を1本**採取してください。凝固の採血をあまり後回しにすると、PT や APTT が延長するため**2本目に凝固検体の採血**を行います。以後、**血算、血糖の順**で抗凝固剤入りのスピッツの採血を行い、その後残りの**生化学**の採血を行います。

ただし、**シリンジ採血**を行ったときは、凝固しないように早く採血管に分注して抗凝固剤と混ぜる必要があります。そのため、**溶血に注意しながら抗凝固剤入りの凝固・CBC・血糖等の採血管に入れてから生化学等の分注**を行います。(※「溶血しないための注意点」の欄を参照してください)

● 溶血に注意！！してください。

溶血とは、赤血球が壊れてヘモグロビンが血漿または血清に漏れ出した状態のことです。溶血をしてしまうと、赤血球中の物質が血清中に出てきて異常高値になってしまいます。

LDH、GOT、カリウム、鉄、リン、Mg等がこれにあたります。

また、溶血後の全血では、**赤血球数とヘマトクリット値が低値傾向**になります。

※溶血しないための注意点・・

- ・ 23G より細い針はできるだけ使用しない。
- ・ 血腫部位からの採血は行わない。
- ・ シリンジ採血の場合、気泡が混入しないように針がシリンジにしっかりと接続していることを確認して、内筒を強く引きすぎないようにする。
- ・ 採血管の混和のときに、強く振り過ぎない（血液が泡立つと、溶血してしまいます）。
- ・ 採血管に分注する時は、**針をはずし**シリンジの先を**採血管の壁につけゆっくり流し込む**。
- ・ 注射器に残った最後の泡の部分は、もったいないと思っても押し出さない。

1 回目の検査のパレットで問い合わせのあったシリンジ採血についてお答えします。

シリンジ採血の際は、採血容器のふたを取って分注を行うように記載しましたが、溶血しないよう注意すれば針のまま分注をすることも可能です。今後も、基本を踏まえた柔軟な対応をお願いします。

2 回にわたって、採血における注意点について記載をさせていただきました。なお、質問等あれば検査スタッフに言っていただければ今回のようにまた報告させていただきます。次回は、便検査について記載します。今後とも検査室をよろしくお願い致します。 文責：藤井 亜依 監修：石竹 久仁